令和 5 年度　斜面樹林化技術協会現地見学会・技術研修会の開催報告

斜面樹林化技術協会　技術委員会

令和 5 年 10 月 17 日（火）に，斜面樹林化技術協会の現地見学会が岩手県二戸市で開催され，協会員 12 名が参加しました。

今回は，緑化目標群落の異なる斜面樹林化工法の 2 事例（①カエデ類を主体とする木本群落，②ミズナラやコナラを主体とする木本群落）を現地見学しました。①は 1996 年の施工で，施工 8 ヵ月後にはヤマハギなどの先駆樹種が優占する植物群落が形成され，19 年 10 ヵ月後にアキグミが被度 3 で優占してイタヤカエデとウリハダカエデが混生する群落に推移したことを説明し，26 年 10 ヵ月後現在では，イタヤカエデが被度 4 で優占し，ウリハダカエデとヤシャブシが混生する，黄葉が美しい木本群落が形成されている状況を，②は 1999 年の施工で，施工 3 年 4 ヵ月後にコマツナギとヌルデが優占する植物群落が形成され，14 年 2 ヵ月後に優占種のヌルデが衰退したことを説明し，24 年 5 ヵ月後現在では，ミズナラが被度 3 で優占し，コナラ，ヤマザクラ，ダケカンバなどが混生する，ナラ類を主体とした木本群落が形成されている状況を実際に見ていただきました。

午後からは，二戸広域観光物産センターで技術研修会が行われ，技術委員会から日本緑化工学会が発表した「生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱い方に関するガイドライン」の解説と，2023 年 6 月に改訂した斜面樹林化工法施工事例集（第 4 版）の中から主要な事例について解説がなされ，参加者の方々に現在の法面緑化をとりまく最新の動向とこれからの法面緑化のあり方に関する理解と，斜面樹林化工法による国内産在来種を用いた自然回復緑化が，生物多様性国家戦略 2023-2030 に貢献する技術であることを再認識していただきました。

参加者一同（背景が事例①）

現場説明を受ける参加者（背景が事例②）

技術研修会